



脱炭素化に関する若者の行動とその政策 決定についての若者の認識調査 結果速報

持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム(JYPS)事務局

2021/02/26



目次



1. アンケート概要
2. 回答者の属性
3. アンケート結果
 - a. まとめ
 - b. 気候変動への危機意識
 - c. 政策の意思決定への絶望
 - d. 緩和策への評価
 - e. 2050年カーボンニュートラル(宣言)への評価
 - f. マルチステークホルダーパートナーシップを生かした施策の推進の必要性
4. 自由回答
 - a. 気候変動問題に関心や危機意識を持つようになったきっかけ
 - b. 将来、どのような暮らしをしたいか

アンケート概要

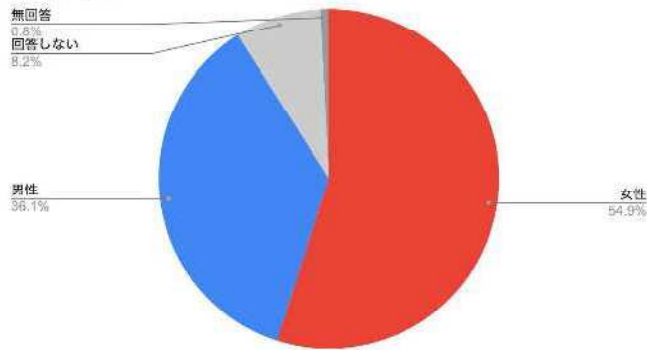


1. アンケート名: 脱炭素化に関する若者の行動とその政策決定についての若者の認識調査
2. 対象: 主に30才以下の若者
3. アンケートの言語: 日本語
4. アンケート管理者: 持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (JYPS)
5. 調査期間: 2021年2月18日~2月24日
6. 調査方法: 各団体の SNS・メールリストにて回答の募集を行った。
7. 回答有効件数 (N): 122件 (2021/02/24 17:00時点)

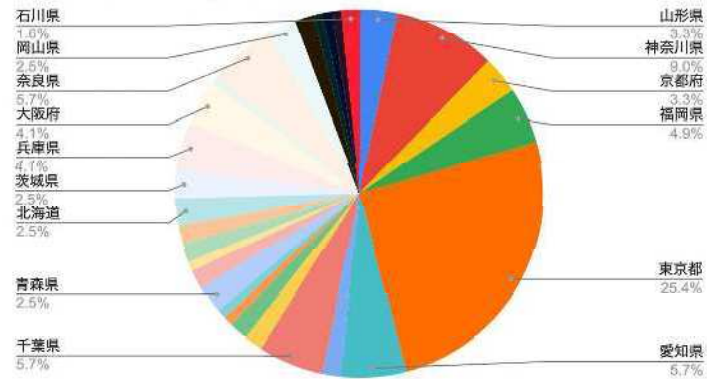
※ 回答者の関心について: 本調査において無作為に標本を選出せず、各団体の SNSなどにて回答の募集を行った。したがって、一定程度気候変動問題などに関して関心のある層が回答している可能性が高い。また、関心の度合いが政策評価に一定程度の正の相関があることに鑑み、回答の傾向には気候危機への対策について積極的に行うべきと評価するものに偏りが生じてしまっていることに留意していただきたい。

回答者の属性

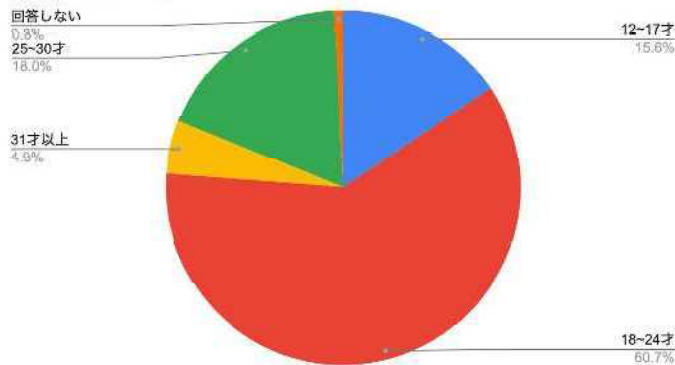
Q1_1 性別



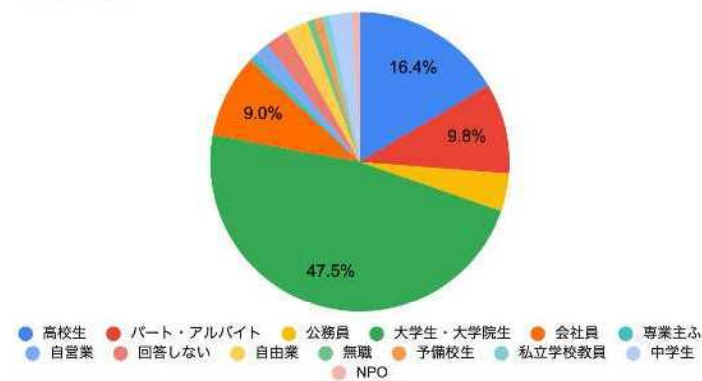
Q1_2 お住まいの都道府県



Q1_3 年齢 / Age



Q1_4 職業



アンケート結果

まとめ

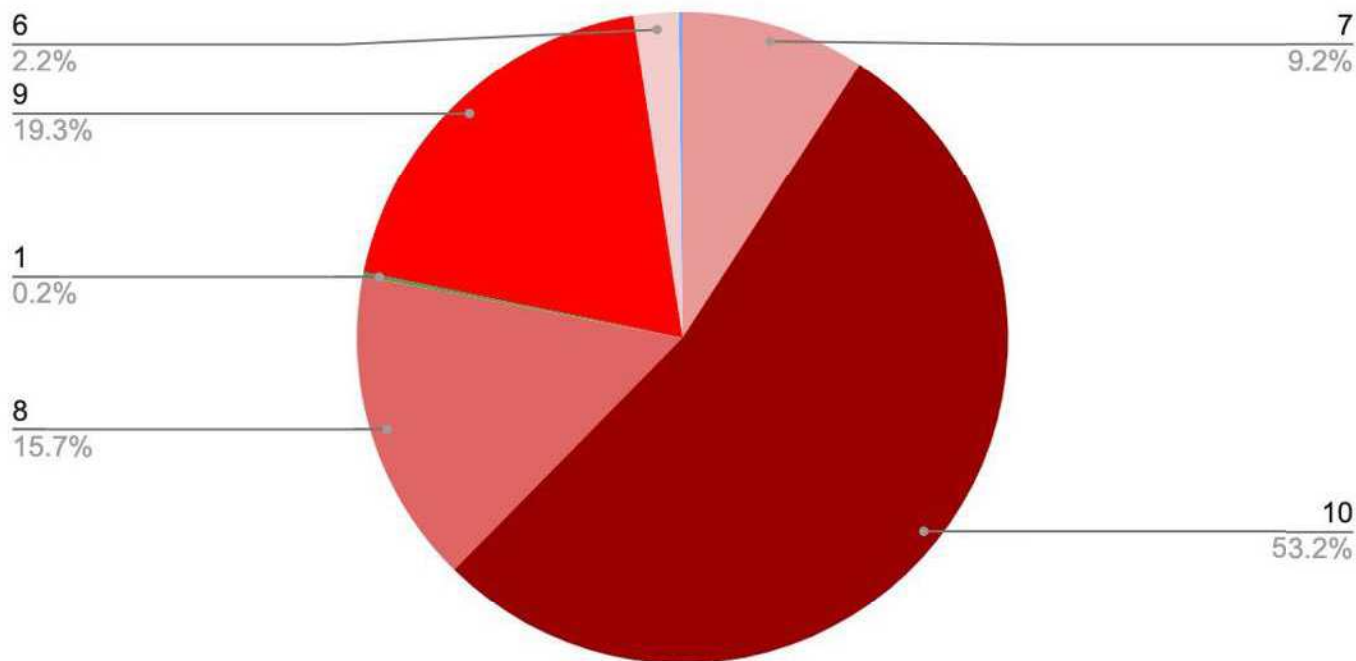


- アンケートの回答者の中では、気候変動に対して危機意識を感じている人が多い。その意識は、書籍やニュースで情報を得るものから、インフルエンサーの影響、あるいは実際に災害に直面したことによる恐怖感などに起因することがある。
- 一方で、行動の範囲は個人レベルに留まることが多く、政治レベルでの変革は依然として程遠い。
- 政府自身も具体的な緩和策(2050年脱炭素宣言含む)を提示できていないと思っている回答が多く見受けられた。
- 政治家の行動や政策決定に対して、無関心であるというよりも絶望に近い感情を抱いている傾向にある。
 - 自分の声を聞いてもらえない、意見を表明する場を見出せていない、反映されないと思っている
- 政府や企業、市民、研究者、若者などが協動的に対応していくことを求める傾向が強い。

気候変動への危機意識



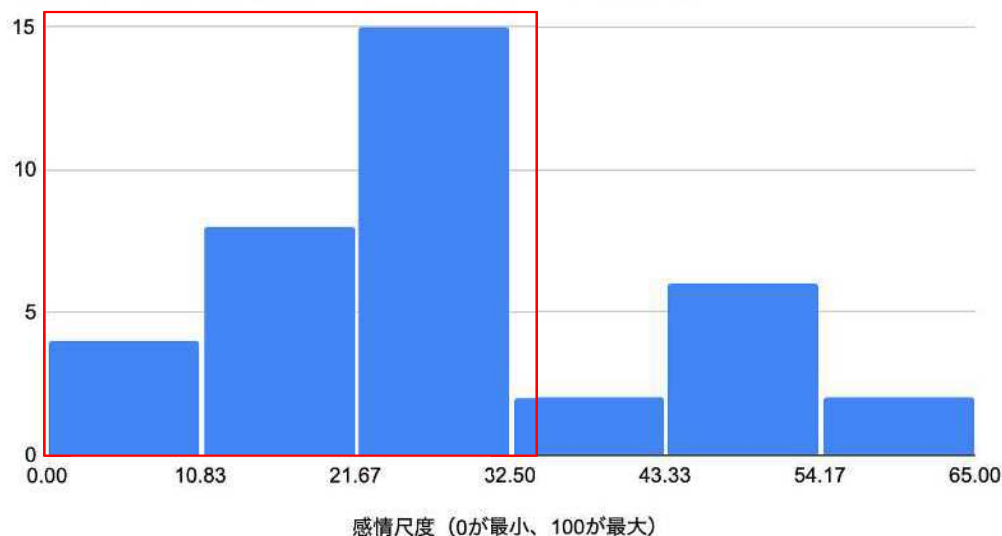
Q2 1
気候危機へのご自身の感じる危機の度合いを0~10の尺度で表すとしたらどの程度ですか。1を「全く危機を感じない」、10を「極めて危機を感じている」とします。（小数点を用いず、0~10の整数でお願いします）



大半が、5以上の数値を選んでおり、その中でも10を選んだ人が多数。

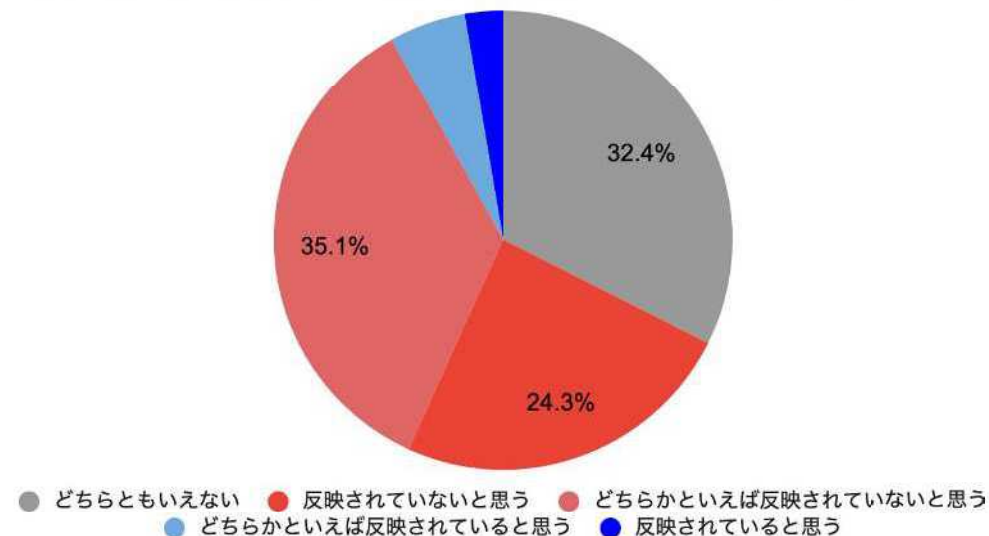
政策の意思決定への絶望(≠無関心)

Q3_2 政党や政治家への気候危機への好感度



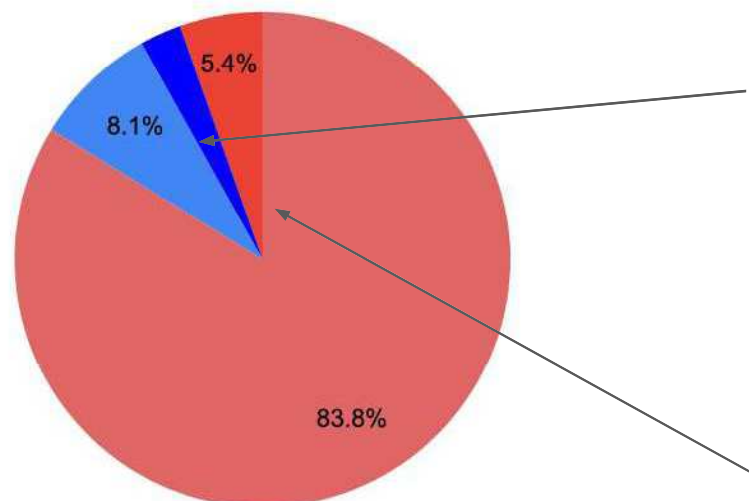
半数以上が、100のうち30以下の尺度を選択している。

Q4_1 政策の意思決定に、ご自身の意見が反映されていると思いますか。



緩和策への評価

Q3_3 気候変動に関する日本政府の緩和策を評価しますか



● どちらかといえば評価しない ● どちらかといえば評価する ● 評価する ● 評価しない

「評価する」「どちらかといえば評価する」と回答した人の理由の例

- ・去年カーボンニュートラル宣言を表明した。環境に配慮した、持続可能なインフラ整備に必要な技術開発の援助
- ・JCMなど海外での排出量削減成果を出すことにも積極性があるため。
- ・排出量削減目標を政府として掲げた点や、再エネへの補助、ccsなど先進技術への投資など変えようとしているところがみられるから。

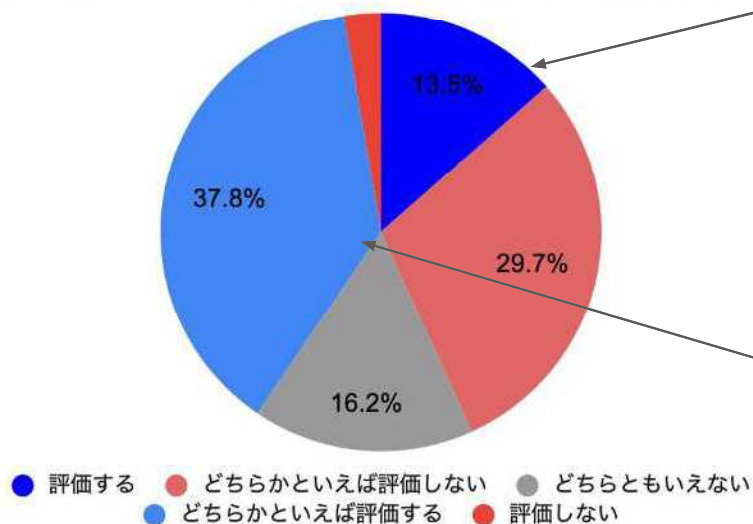
「評価しない」「どちらかといえば評価しない」と回答した人の理由の例

- ・少しずつ緩和策が打ち出されているとはいえ、未だ具体的でない点や目標設定などを感じるため
- ・火力発電への依存、石炭火力発電の輸出をやめないこと
- ・理論の積立がない状態でバラバラに議論が進んでいるように見受けられるため。また、そのための情報公開が十全でないため。
- ・自動車をすべて電気自動車のみにするというのはおかしい。

2050年カーボンニュートラル宣言への評価①



Q3 5
2050年カーボンニュートラル(宣言)に対して評価しますか



「評価する」と回答した人の理由の例

- これを宣言したことにより、官僚の体制も変わり、大きな変化を生み出すきっかけになったと思う。
- 保守的であった2030年見通しと比較して国際水準の目標を掲げ宣言した点
- 最終目標から逆算して戦略を立てているバックカスティング。石炭火力発電に対して本格的な対処法が検討されている。

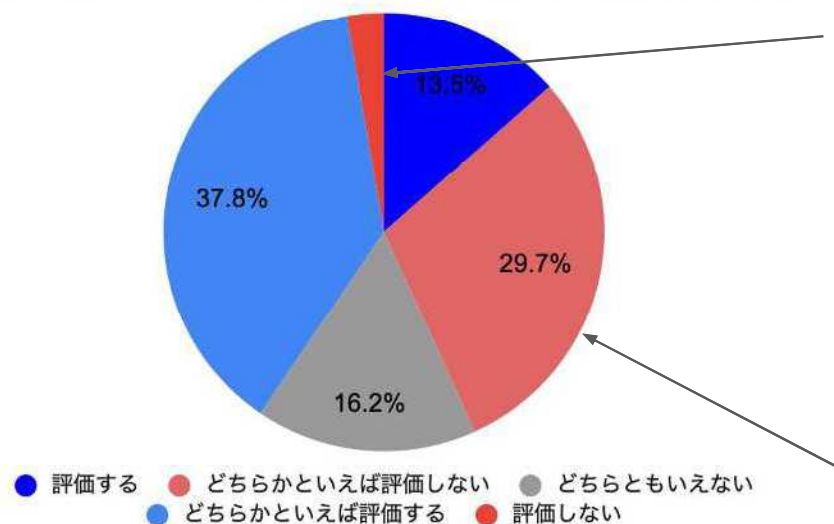
「どちらかといえば評価する」と回答した人の理由の例

- 約30年後の実現と予測されておりまだまだ先ではあるが、もし脱炭素社会が実現できたら大変な環境保全効果があるだろうと期待しているため。
- 吸収量を差し引くとはいえ、目標を0にしたのは思い切ってて良いと思う。でもやはりあまり知られてなく市民の認知度が低い。
- パリ協定の1.5度目標に必要な取り決めだが、2030年の削減目標については言及していないため。
- 実際に宣言が行われたのは評価されるべきだと思うが、重要なのは具体策であると思うし、2050という目標も遅く感じるため

2050年カーボンニュートラル宣言への評価②



Q3_5
2050年カーボンニュートラル(宣言)に対して評価しますか



「評価しない」と回答した人の理由の例

- ・本当の意味でのニュートラルになるとは思えないし、ニュートラルよりむしろニュートラルを下回る努力が必要。結局東南アジアからエネルギーを輸入するだろう。日本はニュートラルにみえても、本当はニュートラルになってないかもしれない。
- ・「緑の経済成長」に違和感がある。経済成長と気候変動対策は矛盾するものだと思う。先進国にとっては「緑」の経済成長は肯定的な意味を持つかもしれないが、それ以外の途上国にとっては、更なる環境破壊を促進するものでしかない。
- ・原発を利用しようとしている点

「どちらかといえば評価しない」と回答した人の理由の例

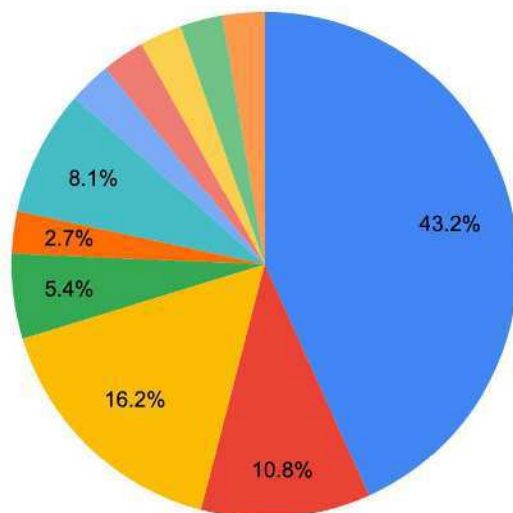
- ・達成するためのプロセス、内容が不明だから評価しない
- ・目標とする期日が遅すぎることで、目標達成に向けての行動が伴っておらず危機感が感じられないこと
- ・現実味がない
- ・脱炭素を表明したが、総理が変わってもモメンタムが維持されると思えない。トップが変わっても維持される仕組みが必要。結局CSなどの革新的技術を当てにしている、脱炭素への道筋が不透明。社会構造、産業構造を変える、公正な移行を行おうという気概が感じられない。痛みを伴わない範囲での表面的な話ばかりしているように思う。ただ、向かうべき方向は正しいと思う。

マルチステークホルダーパートナーシップを生かした施策の推進の必要性



Q3 1

気候危機に対し、現在より一層積極的に取り組むことが求められる対象はどれだと考えますか。あなたの考えに最も近いものを選択してください。



- 市民と政界、経済界など各業界のリーダーが協力して対応すべきだと思う
- 政府がリーダーシップをとって対応すべきだと思う
- 市民がもっと積極的に対応すべきだと思う
- 若者やさらに将来の世代が対応すべきだと思う
- 経済界、各企業が積極的に対応すべき。企業の生産活動が行政や個人の負担...
- 政界、経済界など各業界のリーダーが主導して対応すべきだと思う
- 全人類
- どのアクターも現段階では十分な対応を取っているとは言えないと思います。
- 研究者を主体とした積極的なアクションプランを策定すべきである。
- 技術開発への投資
- 市民の意見を吸い上げて政治や経済に反映すべき

自由回答

気候変動問題に関心や危機意識を持つようになったきっかけ(抜粋)



本・ニュースなど

- 一般書籍からリサイクル問題から入って環境問題、中でも気候変動問題に興味を持ち、持続可能な開発とあわせ解決を図る必要があると感じていたため
- NHKスペシャルとか気候変動の講演会を聞いて、あと少ししか地球がもたないって聞いて本当に危機感を感じている。
- 痩せ細ったシロクマの写真を見た
- テレビで氷河の崩壊やその影響などの映像を見たこと
- 民放連のcmで、北極圏にお住まいの方が「知らない国の誰かが汚した地球の影響を一番最初に受けているんだ」と言っておられるのを見て、はっとさせられた。

影響力ある人から

- 好きなバンドのthe 1975のライブでグレタのスピーチが流れ、それを聞いて地球が大変なことになっていると気づいたから
 - 環境・気候変動に関心がある同級生やグレタさんのニュースを見て関心を持つようになった。
 - 国連からの報告
 - 全国フォーラムにて、政府が気候変動問題に対して意見を発していたことがきっかけです。
- 水原希子さんのインスタストーリーからこちらのインスタを見るようになってから
- 知人から藤原ひろのぶさんのearthおじさんのポスターをもらったこと。

気候変動問題に関心や危機意識を持つようになったきっかけ(抜粋)



実際の暮らしや働きのなかで

- 小学生の頃から地球温暖化には危機感を持っていたが、夏の高温や台風、気候変動の顕在化+行政の無策により、より一層強まった
 - 災害が多くなったから(台風や暑すぎる夏など)
 - 10年以上前である小学生のころから「人類存亡の危機である」と言われ続けてきたのを聞いていて、今はそれがさらに切迫したメッセージをよく耳にするようになったから。
 - 例年のように、観測史上最大規模の風水害が発生しているため。特に大学生以降にその傾向を感じました。
 - 幼い頃から自然や動物が好きで、人間の活動のせいで壊れていく自然たちをテレビなどで見て、二酸化炭素排出の削減対策に日本が貢献して欲しいと強く思った。
 - コンビニのアルバイトきっかけにゴミ問題について考えるようになりInstagramで調べてみたら他にも様々な問題があることを知ったこと。
 - 仕事で世界各地を見て危機を感じました。それに加えて年前に台風被害にあった被災地でボランティアして気候危機の猛威を直接見ました。
 - リニア中央新幹線問題をきっかけに、その他の環境問題に関心を持つようになった
 - スキーの雪の減少から
- 高校生の時、福岡で、中国からのpm2.5による大気汚染の被害を受けた。
断捨離をした時に自分の好みでゴミを生んでしまっていることに気づいた時

学校やイベントなどで

- 関連した授業を取る内に、気候危機に関心を持った
- 大学の授業や団体での活動、そして資料を読んだり、本を読む中で他人事ではないと思った
- 留学体験
- 大学に入ってから情報収集と人との出会いによって醸成された。あえてあげるとするならNGOの講座で気候危機の緊急性と気候正義の重要性を知ったことかも。
- 学校のエッセイトピック
- 一番最初は小学校での総合の授業で、当時は地球温暖化の原因がCO2であるか論争に決着がついておらず、科学がここまで進歩しているのに白黒はっきりしていないのが不思議でたまらなくて興味を持った。
- グローバル気候マーチ

将来、どのような暮らしをしたいか①(抜粋)



暮らし全般

- ・自らの幸福度と消費のバランスを見合わせて時代の変化とともに柔軟に対応できるような暮らしをしたい。
- ・食べるもの、交通手段、住宅など無意識に選択しても環境にいいものが選べる社会でありたい
- ・気候危機が全員共通の喫緊の課題であることが【常識】であり、環境負荷の最も少ない選択が当たり前である暮らし。
- ・自分の生活の便利さ・充実や社会・経済の便利さよりも、自然が保護されていること、脱炭素社会、持続可能な未来を最大限重視された環境で暮らしたい。
- ・自然を感じることができ、自然、動物、植物などへの敬意を払う人が多くいる環境に身を置くことができたらと思います。
- ・より地域に根付いた暮らしをしたい。自然とのつながりを大切にしたい。地球、動物に優しく、ゼロウェイブでよりミニマムな暮らし。
- ・偏在する物質的豊かさの裏にはそれを享受できない人々が常にいることを意識して生活したい。
- ・大人になっても常に学ぶ、自分のため、自分の家族のためばかり考えず、社会全体について考える。
- ・働きつつ、自炊や読書などの趣味をする時間がとれるような、忙しすぎない暮らしがしたいです。綺麗な空気、水など、環境と共存できるような、都市化していないところで豊かな暮らしがしたいです。
- ・完璧にやろうと思うより、心地いい環境を作っていくことを望んでいます。
- ・それを行うにあたって苦でないような暮らし。

移動

- ・車に乗る時はエコカーを使用したい電気自動車の購入も検討する
- ・公共交通機関の利用促進を図る
- ・飛行機、自動車に乗らない生活
- ・輸送手段としては電気自動車のカーシェアリングシステムが望ましく、トヨタのe-palletのような世界観が期待される
- ・狭いエリアで暮らし移動に伴うghg排出を減らす

働

- ・VR技術の普及が進まなければオフィスで直接会う機会がほしい
- ・環境を破壊の原因になっている企業、または提携している企業は応募しない
- ・働く環境としてはおかしいことをおかしいとはっきり意思表示できるような体質を促進していくべき
- ・オフィススペースを社会のための場、または住宅に変えたい

将来、どのような暮らしをしたいか②(抜粋)



衣

- ・服は最低限しか着ない
- ・体温調節は出来るだけ服で調整する。
- ・新しい衣類はまず、古着から探す
- ・耐久性のある素材、古さを感じさせないデザインのもの、定番と言われるものを中心に、「着回し」できる、気に入ったアイテムを揃える。

食

- ・エコラベル製品を用意に選択できることが望ましい
- ・肉を食べない
- ・ベジタリアン
- ・ペスカタリアン
- ・地産地消

住

- ・ゴミの削減
- 服を買いすぎず、よりサステナブルな生地や包装を選ぶ生活
- ・コスメやスキンケアも出来るだけプラスチック容器や成分が含まれないものを使う生活
- ・太陽光付き高断熱住宅で基本テレワークで過ごしたい
- ・100%太陽光発電で生活できる家に住むのが私の夢です。でも費用がかなりかかるので、いつ実現できるのかな...と思っています。
- ・戸建てで生活することになった場合は再エネによる電気・熱を有効活用できる設備を取り入れたい
- ・再エネを利用と言いたいところだが、実家暮らしで厳しく、動きやすい範囲で厚着し、窓にプチプチのビニールで断熱して、できる電力を使わない
- ・節電を心掛ける。
- ・再生可能エネルギーを供給源にしている電力会社を選ぶ
- コンポストする
- ・Refuse, reuse, reduce, recycleの意識
- ・環境に配慮した製品を使う、買う。
- ものを長く使う
- ・Loopを利用し、出来るだけゼロウェイストの生活をする。

将来、どのような暮らしをしたいか③(抜粋)



ビジネスや融資の環境

- ・グリーンウォッシュを排除、「地球にやさしいビジネス」が正当に支持される価値観、モラル、企業風土がはぐくまれ、浸透してほしい。「地球にやさしいビジネス」で自分の力を発揮したい。
- ・「モノ」を作っている企業側が改善していかなければ根本的にCO2は削減できないと思う
- ・石炭火力発電に融資していない銀行を選んで利用していきたいです。

学びの環境

- ・脱炭素化は政府のリーダーシップも大事だが、国民一人一人のコミットメントがあってこそ実現できるものだと思うので、1人でも多くの人を巻き込み、そしてそのモチベーションを維持するためにも脱炭素化の背景(気候変動等)を学ぶことができる環境・教育カリキュラムがあって欲しい
- ・学校教育では社会問題の大きさに応じてそれについての教育を増やすなどの柔軟な対応をできるようにして欲しい。

その他の考え

- ・正直なところ、自分一人が生活の中で節電やエコドライブなどを心がけても焼け石に水感が強い。そのため日常のルーティーンは変える気がない。その代わり政府が今後強権的に「ガソリン車禁止」や「計画停電」など多少乱暴な政策をとった場合は大いに支持したいと思っている。
- ・まだまだ自分の生活の中で何をすれば脱炭素社会に貢献できるのかを理解できていないし、知識が足りない。まずは色々な情報収集から始めたいです。本を読んだり、情報誌の環境に対する特集を読んだり、私はよくInstagramを利用するので、そのようなSNSを活用したりして、情報を集めたいです。



問い合わせ

持続可能な社会に向けたジャパンユース
プラットフォーム (JYPS)

Website: <https://www.jyps.website/>

Instagram・Twitter: @JYPS2030

Facebook: Japan Youth Platform for
Sustainability

メールアドレス
:japanyouthplatform@gmail.com